

新しい出会いを喜ぶ

先日千葉市幼稚園協会の新任研修会でお話をしました。矢内先生も香取先生もいました。その冒頭で、私（園長）がこういう仕事を選ぶことになったいきさつを話しました。高校生の時代のことです。私は生き物が好きでした。だから将来生き物を相手にする仕事をしたいと考えようになりました。始めは畜産・酪農の仕事をしようかと思いました。次に海の生物のことにかかわる仕事にしようかとも考えました。けれども、命あるもののうちで一番おもしろいのは人間だと思ふようになりました。人間を相手にする仕事のひとつとして先生になろうと考えたのです。そして当時は珍しかった知恵遅れの子の教育を選びました。学校を出てから17年間養護学校の先生をして、その後愛隣幼稚園に園長としてきて満25年が終わりました。

人間が一番おもしろいというのは、人間というものの素晴らしさや美しさという肯定的な姿だけでなく、人間の悲しさも含んでいます。養護学校時代は、人間が真摯に一生懸命生きる尊さと美しさを生徒たちから教えてもらいました。そんな彼らを能力が低いとしか見ることでできない人間の哀しさにも出会いました。養護学校の生徒であることを隠そうとする生徒たちの悲しさも見ました。そして幼稚園に来てからは、人間が持っている力の素晴らしさを子どもたちに見せてもらい、感動し続けました。そしてやっぱり子どもたちも、人間のもつ弱さも悲哀（いじけたり、他人にヤキモチを焼いたり・・・）をちゃんと持っていることを知りました。そのような子どもたちの姿を見ることにも心を動かされ続けました。いろいろな姿を一緒にたにして、人間はなんと愛おしいものだろうと思うのです。だから合計42年間この仕事を続けてきて、最初の選択は間違いではなかったと思いますし、そう思わせてくれた生徒たち・子どもたちに心から感謝しています。

とりわけ教育という仕事は、常に新しい出会いがあるところが魅力です。それも希望や期待を込めての出会いです。きっと素晴らしいことが待っていてくれるという、わくわくした気持ちで、人と人が出会うのです。医者と患者の出会い方、老人と介護職員の出会い方、それらにはないもの、それが学校や幼稚園に繰り返し訪れる新しい出会いです。今年もまたそのときがやってきました。先生と子どもだけでなく、子ども同士、先生同士、お母さん同士、みんながそのようにして出会います。新入園の子たちだけではなく、進級した子たちも、新しい出会いをするのです。みんなでこれまでの殻を脱ぎ捨てて新しい出会いをしましょう。

聖書はその冒頭で人間について次のように書いています。「神様は人間を自分の姿に似せて造った。」「その鼻の穴に息を吹き入れたとき、人間は生きるものになった。」これは人間って何かをととてもよく説明しています。人間のなかには神様の姿が映っているのです。それが人間にあたえられた良い姿の出所です。また目に見える物質によってでなく、目に見えないもの（神様の息吹）が、人間に命を与えるのです。子どもたちひとりひとりに、神様が与えてくださっている良いものを見つけないと思いません。プレゼントの包みを開くように、その良さが現れてくる幼稚園生活になってほしいと願っています。一方、どの子にも弱さや悲しい姿も内包されています。でも神様はそれをよく知っていて、支えておられます。だから私たちも同じようにします。人間同士みんながそうだから、子どもも大人もみんな同じだから、支えあいます。

みんなでそんな1年間を過ごしましょう。